

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム城南スマイル ～ うらら		
所在地	熊本県熊本市南区城南町下宮地397-2番地		
自己評価作成日	平成 26 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成 26年 5月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「火の君の里」で知られている城南町の自然豊かで静かな住宅地の一角にあるグループホームです。近くには浜戸川や広大な田畑が広がり絶好の散歩コースとなっており春にはレンゲ草が咲き誇り秋には黄金色に稲が実り季節感を満喫することができます。地熱利用の換気システムと床暖房を完備しており高気密・高断熱工法により年間を通してエアコンを使用せず自然に近い体感温度で快適に過ごすことができる建物になっています。周辺には同法人の小規模特養と協力病院があり医療面や緊急時の協力体制が整っています。どなたでも入居しやすいよう低額の利用料金設定を行っています。お互いを思いやる気持ちを大切に利用者本位にお一人おひとりが安心して安全に自分らしい暮らしが出来るよう寄り添った支援を行います。いつも笑顔と笑い声の絶えない明るく元気なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然の豊かさと利便性を併せ持つ絶好の位置にあります。地熱を利用した換気システムと、床暖房が完備された高気密・高断熱工法の建物は、年間を通して23～24℃に保たれています。また利用者が集まれる共用空間はトップライトが取り付けられ、自然の光の中で暮らすことが出来る様、工夫されています。また事業所は開所一年ですが、地域との付き合いに一生懸命取り組んでおり、区長や民生委員、また老人会会長とも関係を築いています。近所の方とは日常的な関係が出来ており、利用者との会話や、外出支援にも協力して頂いているようです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	嘉悠会の理念・行動指針が地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念その物でありそのまま掲げている。毎日、朝礼の最後に全員で唱和する事で職員としての心構えを確認し共有実践につなげている。	事業所は『利用者本位～常に相手の立場になって』という基本理念と、5項目からなる行動指針を掲げている。毎日の朝礼では唱和を行い、基本の再確認を行っている。職員の聞き取りからも、声を出すことで意識を新たにすることができ、声を出すことの大切さが聞かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の奥さんや小学生がいつも遊びに来られ交流を図っている。尚、地域の一斉清掃に参加するなど地域活動に参加している。もちつきの際は地域の方の指導とお手伝いで無事終了出来た。	事業所は、開所してちょうど一年である。地域との交流にも積極的に取り組もうとしており、地域の一斉清掃に参加している。また事業所のもちつきでは、近隣の方々の指導や応援で無事終了し、地域との距離が縮まっている。また、近所にとっても協力的な方や、区長兼民生委員もおられ、日常的な交流もあり、利用者にもいい影響がでている。近所の小学生も友達を連れて遊びに来たりもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談はいつでも受け付けており出来る限りのアドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に1回行っており入居者の状態や行事及び状況報告等を行っている。「ささえりあ」の職員、家族地区の区長、民生委員、老人会長の協力により意見やアドバイスをたくさん頂いており改善に努めている。	運営推進会議は、奇数月の第4水曜日に行われている。外部からの出席者は、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、老人会会長、利用者家族2組となっている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見やアドバイスをもらっている。また、老人会長が女性の方で、とても協力的であり、利用者にも会いに来られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告が必要な事については熊本市担当者に相談しながら行っている。調査依頼等も出来る限りの協力を行っている。月1回介護相談専門員派遣により入居者の思いを聞いて頂くことでたくさんの気づきをさせて頂いており改善につながっている。	運営推進会議への市の担当者の出席はないが、かわりに地域包括支援センター職員が出席することで、良好な関係を築いている。また、運営上分からない点や判断に迷う点があればその都度、市の担当部署に連絡を入れ、指導を仰いでいる。昨年の6月からは、市が派遣する介護相談専門員を受け入れている。	

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に身体拘束とは何なのか、言葉の抑制も拘束に含まれるなど話し合って理解している。玄関についてはどうしても必要と思われる時は一時施錠する事もあるがその他の身体拘束については一切行っていない。	月に1回は、ミーティングの最期に勉強会を行い、身体拘束にあたる具体行為や言葉による抑制、またその弊害について学んでいる。グループホーム連絡協議会から送られてくる資料についても必ず回覧している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアワーカーミーティングのあと勉強会を行ったり日々の暮らしの中で職員全員で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加した場合は報告会をケアワーカーミーティングのあと行っている。勉強会もケアワーカーミーティング終了後行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はわかりやすく説明を行っており疑問点がないかしっかりお尋ねし納得されるまで説明行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っている。なお、常に声掛けを行い意見、要望をお尋ねしている。要望等がある場合は出来る限り早急に解決、改善できるよう対応に努めている。運営推進委員会終了後、参加家族と職員で雑談の機会を設けておりそこで出た意見や要望などについて早急な改善に努めている。	玄関ホールに意見箱を設置している。いろいろな機会を捉えて、声掛けを行い、意見や要望を尋ねている。7月には家族会も結成される予定となっている。また昨年6月からは毎月、市が派遣する介護相談専門員を受け入れている。利用者も相談員と顔馴染みになっていて、思いを知ることが出来るようで、改善につながることもあるようである。	第三者苦情処理機関のポスターの掲示をお願いします。今後も謙虚に耳を傾け、サービスの質の向上に取り組んでほしいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は出来るだけ意見を出しやすいような雰囲気を作っている。普段も声掛けに努め傾聴に努めており意見やアイデアは皆で話し合い可能な範囲で取り入れている。	ミーティングでは、意見や要望を聞く機会を設けている。また、日頃から意見の言い易い環境づくりに取り組んでいる。これまでに職員の意見で、バイタルチェック表等の記入に関して、効率的な改善が図られたようである。職員の聞き取りからも、環境作りが進んでいることが分かった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年2回自己評価を行いそこで目標を掲げてもらいその達成状況により賞与等に反映させている。向上心をもって業務遂行しアイデアを出すなど努力と実績を認められる時も同様に対応している		

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて熊本市や熊本県主催の研修会や地域で行われる認知症等の勉強会に参加する事を進めており資格取得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市ブロック連絡協議会の研修会には出来る限り参加行い他の事業者との交流を図り情報交換に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人と面談行い安心される様しっかり声掛け傾聴に努め思いを知り希望に添えるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも必ず面談行い家族の思いを傾聴し安心して頂ける様な対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面談する際は必ず2名で対応し、連携室の職員と相談しながら本人・家族にもっとも必要と思われるサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開所1年が過ぎ信頼関係が出来てきており出来るだけ自由に過ごして頂ける様心がけ入居者と職員が家族的に過ごせている。「ここが一番よか」との声がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い情報を共有しながら対応している。体調等の変化がある時はご家族には早期の報告を行っている。尚、できるだけ家族とのふれあいが出来るよう支援している。		

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友達や元同僚など気軽に遊びに来て頂くよう声掛け行くとともに立ち寄りやすい雰囲気作りに努めている。元同僚と一緒に外食に出かけられる事もある。	元同僚だった方が訪ねて来られたりする。その中には、一緒に食事に出掛けたり、また犬を連れて来られる方もおられる。他には、子供や兄弟のところに外泊される利用者もおられる。事業所は、これまで大切にしてきた馴染みの人との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファの席などの配慮に努め入居者同士の関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が県外に住んでおられる為、入院による退去後も病院との連絡、不足物の補充など出来る限りの支援を行っている。なお退院後の受け入れ先についての相談にも応じ支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人は勿論、家族の面会時、出来る限りの声掛け傾聴に努め希望や意向をお尋ねしている。「寄り添うケア」の実践を心がけている。	家族からの聞き取りや日々の係わりの中で、コミュニケーションを大事にし、思いや意向の把握に努めている。買い物の希望や色々な要望・帰宅願望の要求もあり対応している。自分から訴えることが出来ない利用者には、寄り添うケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族は勿論、関わりのあったケアマネジャーや面会に来られた親戚の方から出来るだけお尋ねし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック行い様子観察に努めている。各職員がその方の生活スタイルの把握に努めている。		

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望・要望は勿論必要に応じては主治医や看護師・薬剤師・作業療法士等に相談話し合いを行い意見を踏まえて計画書を作成している。定期的にモニタリングを行い3か月ごとの見直しを行っている。	介護計画は、本人・家族の希望を聞いた上で、必要に応じて主治医や看護師、薬剤師、作業療法士等の意見も踏まえ、ケアマネージャーが作成している。例えば、うがい難しい利用者の吸入処置については、薬剤師の指導を取り入れている。また年度末からは、作成方法見直しを検討しており、サービス担当者会議を行う予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、1日を通して個別のケース記録に記入しており必要に応じて急遽、ケアカンファレンスを行ってケアの向上に努めている。申し送りノートを活用し情報の共有も図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の事業所や他事業所と連携を取り希望により協力調整行いできる限りの支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	城南町の文化祭等への参加支援を行い喜ばれている。近くの神社にお参りに行ったり近くの河原までの散歩の途中、近所の方の声掛けがあったり子供との交流ができとても喜ばれ楽しみの一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回及び必要時に受診介助行っておりDrや看護師との信頼関係ができてきておりスムーズな受診が出来ている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。付き添いについては、家族の対応が基本となっている。説明が必要な場合や一人暮らしの場合には、職員が対応するようにしているが、利用者の状態について、手紙を持たせることも多い。また歯科の受診について、初診時は家族の付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有するとともに職員全員が常に相談行い意見やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や看護師と連絡を密に行い情報交換に努めている。入院中は出来る限り面会に行くように心がけている。		

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でグループホームで出来る限りの支援は行うが医療依存度が高くなれた場合は入院をお願いしている。もちろん、グループホーム入居中は担当医との連携を図りながら精一杯の支援をしている。	日常的な医療行為が必要になったり、経口摂取が難しくなった場合には、入院をお願いしている。看取り支援については、現在のところ内部での話し合いや、勉強会は行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備を行うとともにグループホーム内で定期的に研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	宇城広域連合 北消防署城南分署の指導で訓練を実施。地区の区長を通じ地域の消防団の協力をお願いしているが訓練は来年度になる見込み	開所一年目で、避難訓練は昨年11月に消防署の指導の下行われている。また現在、地区の区長より消防団に協力要請が行われており、来年度は、消防団も立ち会っての避難訓練が実施される見通しである。	今後、非常時に備えて、近隣の方々の協力体制づくりも進めて欲しいと思います。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには注意を払っており尊敬の気持ちを持って接している。本人が嫌と思われる事には触れないように気遣いしながら気持ちよく暮らして頂ける様心がけている。	人生の先輩に対して、失礼のない言葉使いや尊敬の気持ちを持って、接するようにしている。また利用者が気持ちよく暮らせる様、本人が嫌なことは触れないようにし、自分がされて嫌なことは利用者にもしないことを基本に、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしく過ごして頂ける様声掛けと傾聴に努め本人の意思を一番に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活習慣を把握し本人のペースに合わせて対応している。起床時間や食事時間も本人のペースに合わせた対応をしている。可能な範囲での家事参加にも声掛け支援行っている。		

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を一番に対応している。希望を大切に一緒に選んでいる。自分で選ぶ事が困難の方については職員が選んで可能な範囲で本人に確認を取っている。近所の奥さんがいつも遊びに来てくださりマニキュアなどおしゃれの手伝いをして頂いており皆さんとても喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	混ぜたり泡立てたり取り分けたり、お茶を入れたり台を拭いたり出来る限り可能な範囲で支援行っている。好物を把握しており嫌いな物に対しては代替え品を準備提供している。	昼と夜の食事については、法人の別事業所で一緒に作っており、この事業所では朝食とおやつを作っている。食が進むよう、荒刻みやトロミなど、個別対応を行っている。また、ひな祭りにはちらし寿司、誕生日にはちらし寿司やいなり寿司、ケーキを手作りしている。また食事前には、健口体操を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立にて提供行っている。お一人おひとりの適量を職員全員が把握しており調整行っている。水分は日中も頻りに提供し夜間も出来る限り水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と食後は必ず口腔ケアをして頂くよう声掛け支援行っている。現在は用品の準備、声掛け、見守りにて全員可		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりのパターンを把握しており適時誘導行っている。排泄チェックにて排泄状況の把握に努め適時対応を図っている。できる事は自分でして頂くよう声掛け・支援行っている。	排泄が自立している方は4名程である。職員は、一人一人のパターンを把握しており、適時声掛けを行い、誘導している。また、それぞれ、落ち着きがなくなる、トイレの方向に行く等の特徴にも気を配り、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや冷乳等の提供を行うとともに水分をしっかり摂取して頂くよう支援している。腹部マッサージを行っている。出来る限り3日めでは排便あるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けを行い希望に沿った時間に入浴して頂いている。拒否ある場合は、時間を空けたり次の日に変更したり臨機応変に対応している。希望ある時や必要時には随時入浴して頂く事もできる。	入浴回数は、週に3回を予定しているが、必要な場合には、その都度対応している。浴室は、介助しやすいようにゆったり造られており、リフトも備え付けられている。また拒否がある場合には、時間を空けて声掛けしたり、別の職員が声掛けしたり、時には家族の協力を得る場合もある。ゆず湯やしょうぶ湯等の季節を感じる支援も行っている。	



グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節や寝具調節に努め快適に過ごせるよう環境整備を行っている。安心して眠れるような優しい声掛けと傾聴に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬情表をまとめてファイルしており全職員が把握している。なお、与薬チェック表に記入している。症状に変化ある時は看護師に相談必要に応じて主治医に相談も行っている。早め早めの対応に努めている。誤薬予防に3人の職員でチェック行い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や近所のスーパーへの買い物などを楽しみにされている方には出来るだけ希望に沿うよう支援行い気分転換につなげている。毎日晚酌される方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力をいただいておりますボランティアの方の協力も得て散歩や買い物にも出かけている。短時間のドライブも支援している。	事業所は、のどかな田園地帯にありますが、すぐ近くの国道沿いには、いろいろな店舗が並んでいる。家族の協力や近くの方々の協力を得て、洋服や化粧品、日用品等の買い物に出掛けることも多い。また、桜やあじさい、コスモス等の見学や、紅葉に通潤橋まで出かけるとの事である。	これからの時期は気候も良くなります。事業所は大変環境に恵まれた場所にあります。日光浴等の支援にも取り組んで欲しいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の所持を希望される時は3千円までと決めて所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供さんや妹さんから電話がある方もあり取り次いでいる。必要時はこちらからも電話をかけて頂くこともできる。手紙も自由にやり取りできるよう対応している。		

グループホーム城南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年中23～24℃の室温が保て快適に過ごせる建物であり建物の周囲には季節の花を配置し季節感を感じて頂ける様支援している。日中は自然の光の中で暮らせるよう採光に工夫している。	事業所は、高気密高断熱の建物で、床暖房も完備され、自然の光の中で暮らせるよう工夫された室内は、とても明るく快適である。また室内環境にも配慮しており、消臭や花粉・ウイルス除去のための噴霧器も設置されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングでは大体席が決まっており自分の居場所となっている。廊下の端に椅子を設置しておりそこで外を眺めながら会話が弾んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅で使用されていた馴染みの品物を持参して頂き安心できる居室となっている。	居室の基本的な設備は、ベッド、空調、消灯台がセットされている。寝具その他日用品等は出来るだけ使い慣れた物を持参してもらうよう説明している。居心地良く過ごせるよう家族写真を貼ったり、仏壇を持ってこられている方も居られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっている。。出来るだけ障害物は置かず安全に過ごして頂ける様対応している。居室入口には表札を掲示しているがそれでも居室が分からない方には目印を付けて分かりやすく工夫している。		